

学校法人コミュニケーションアート 東京デザインテクノロジーセンター専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

令和5年度自己点検・評価表(令和5年4月1日～令和6年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員の御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
1 教育理念・目的・育人人材像	1-1 理念・目的・育人人材像は定められているか	3	学校法人コミュニケーションアート 東京デザインテクノロジーセンター専門学校(TECH.C.)は、滋慶学園グループに属し、「職業人教育を通して社会に貢献する」ことをミッション(使命)としている。	・滋慶学園グループの理念、コンセプトは学校に関わるスタッフ全員に浸透しており学校運営にあたっている。 ・企業プロジェクトでプロの仕事と同じプロセスを経験し、仕事を実践する力を身に付ける様に努力している。また課題を解決するためのアイデア、コンセプト立案、クリエイティビティ、プレゼンテーションを行い実践的な創造力を身に付ける過程を学生は学んでいる。	3	・レベルの高い学生から、ぎりぎりの成績の学生がいる中で、同じ教育をすることは難しい。評価する基準を設けた方が良いのではないかと感じる。 ・実学として、企業プロジェクトは非常に有意義と思われる。何を創り上げたかも重要であるが、成し遂げるまでの責任感もさきさきにおいては大切な経験であり、自然と身についているのではと感じる。
	1-2 学校の特色は何か	3	「3つの教育理念」「実学教育」「人間教育」「国際教育」を実践し「4つの信頼」①学生・保護者からの信頼 ②高等学校からの信頼 ③業界からの信頼 ④地域からの信頼を得られる学校を目指している。	・産学連携教育の核となる企業プロジェクトは40タイトルを実施した。課題提供企業としてインテル、マイクロソフト、さくらインターネット、データブリックス、セガ、バンダイナムコなどの大手グローバル企業に協力を得ることが出来た。また、千葉市、小樽市などの自治体からの課題もあり、学生の作品が実用化されている。 ・1年間で30タイトルに取り組むことを目標としているが、令和5年度は40タイトルに取り組むことができ想定以上の成果が得られ、優秀な作品については学生を表彰している。 ・学園グループ合同で産学連携教育がわかるように、冊子を作成し関係企業などに配布している。	3	・企業プロジェクトが学校の特色ということ、重要さは理解できるが、その企業プロジェクトを取り去ったときに、TECH.C.のアイデンティティがなくなってしまうのではないかと感じる。器用なんでも屋にならないようにする部分の「核」が大切。その核となりそうなものはTECH.C.にはたくさんあると思う。 ・教育理念や信頼については私のような接点が少ない立場でも十分に感じることができる。今日の社会情勢において特に人間教育は欠かせないものと思われるため、継続して進めてほしい。
	1-3 学校の将来構想を抱いているか	3	プロとして必要な知識力・技術力と合わせ、ホスピタリティマインド、コミュニケーション力、チームワークなどこれからの業界に求められる人材を育成し輩出している。また、“TECH.C.はテクノロジーを使って、「創造力」を仕事にする学校”として、多くの人々に喜んでもらえる、感動してもらえるモノづくりができる人材の育成を実践している。	ゲームプロジェクト、ITプロジェクトなど学年を超えてチームを編成し、作品制作やイベント出展などが出来るようにしている。課題制作を通してコミュニケーション力、チームワーク、リーダーシップなど、社会人に必要な共創する力を身に付けている。特に、We are TECH.C.には全学生の成果を展示し、優秀作品を表彰し、下級生も意欲的に取り組める体制を構築している。	3	・「創造力」を仕事にするという事はどのような事なのか、評価する基準を設けた方が良いのではないかと感じる。基準がわかると学生も今自分は全体の中でどのあたりなのか把握できる方法があっても良いと思った。企業課題以外の部分をもっと見せても良いのではないかと感じる。 ・社会が必要とする人材の育成は実践がされ、また社会のニーズに変化におうじた幅を持たせた教育に向けてもWメジャーカリキュラム等の対応ができています。
2 学校運営	2-1 運営方針は定められているか	3	運営方針は滋慶学園グループの示す、毎年の長期・中期・短期展望を基に、事業計画を毎年作成している。	事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決議を受け、承認を得ている。	3	・システムの導入は進んでいると思うが、運用に関してはまだ足りない。目に見えて改善されているかと言うと、まだ不十分のように見える。現場ベースでの運用が考えられているのか、使い勝手の悪さがあるように思う。PCのソフトウェアに関しては改善されつつある。
	2-2 事業計画は定められているか	3	事業計画においては、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取り組み、職務分掌、各種会議及び研修等々について明確に明記されている。運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点に立って行っている。	事業計画書は、広報・教務・就職・総務と、学校におけるすべての部署について考えられ、また、すべての部署が同じ方針・考え方を理解するように努めている。また機材、環境、ソフトウェアなどは学園本部とセッションのうえ予算を策定しているため時間的余裕が必要となる。業界の動向に合わせて授業講師や各企業に相談のうえ導入を検討している。	3	・事業計画はしっかり定められていると認識している。 ・外部には出せない内容ということは理解しているが、講師に関わる予算が分かると教育にも役立てやすいと思う。
	2-3 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	3	事業計画書の組織図には学校に係わる人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。	学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、組織図、職務分掌、意思決定が明確になっており、各会議を通じて効率的に責任者の決裁を得るように務めている。	3	・滋慶学園のスケールメリットを活かして、さらにグループ校との連携や風通しが良くなれば、上手く補えると思われる。
	2-4 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3	滋慶学園グループが定める人事制度により処遇されている。	最先端の仕事に携わっている方を非常勤講師として採用し、充実した教育が実現している。適任講師採用に苦慮することもあるが、現状では十分な教育が実現できている。	3	・新任の講師が20名採用されたとのことで、今後も引き続き講師募集の状況が改善されることを期待したい。
	2-5 意思決定システムは確立されているか	3	意思決定システムは内容により会議等のプロセス、そこにおける決裁者、最終決裁者も事業計画に明記し、確立されている。	定期的なミーティング、会議、教育部会、各種委員会などを的確に実施している。	3	・定期的に実施されていることを評価する
	2-6 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	滋慶学園グループではDX委員を各校より選出し、定期的なミーティングを実施しており、デジタルトランスフォーメーションを駆使して業務の効率化を図っている。	・学生個人の面談記録、個人情報、出席状況、成績などを教務チーム全体で対応が出来るようにデジタルで一元管理している。それにより学生対応の向上が図られている。 ・学園グループでDX事例の検討を行い、専門機関がシステム開発している。	3	・利用できるシステムや設備の導入は進んでいるが、実際の運用面についてはあまり効率化が図られていないように思う。具体的な進捗状況を日々の現場の中で教えていただくと良い。 ・実際のDX事例について情報シェアしていただきたい。

3 教育活動	3-1 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	3	職業人教育は常に業界と密接な関連を持たなければ、教育目標、教育する人材像は正しく方向づけられないと考えており、業界の動向を常にキャッチし、その変化に対応して養成目的や教育目標の見直しを毎年実施している。	授業内容は業界のクリエイター・エンジニアである講師の意見、学生の就職先企業からのヒアリングなど、常に見直しを行っている。また特に産学連携教育の核となる企業プロジェクトに力を入れており、業界に必要な仕事を実践する力を身に付けている。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートを学生に取っているが、その結果の共有が充分ではなかった。 ・他の講師のアンケート結果を共有し、分野別の講師会などでミーティングし、授業改善出来ればいいのではないかと。どんな所が良くて、どんな所が悪いのかを把握し、アンケート結果がいい講師の授業を見学するなど検討してみてもどうか。 ・ワールドの核になる講師などに協力を得ながら授業改善を行うのも検討して欲しい ・産学連携教育を実践し、企業と密接な関係ができていと思われる。
	3-2 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	3	「学生便覧」に「学年/学期到達目標」を記載し、各専攻ごとに4年制は8セメスター、3年制は6セメスターに分類し、教育到達レベルを明確化している。	高学年の指導方針は学生便覧の到達目標をもとにしているが、高学年になるにつれ一人ひとりのスキル、意欲などが異なる場合が多いため、本校独自の教育システム「ダブルメジャー」を利用して、一人ひとり面談のうえで履修する科目を決めている。	3	・これまで長く授業を担当し学生指導をしてきたが、開校初期のころに比べ、現在の学生の学習に対しての意識が大きく変化している。学生の意識が高く、良い作品が多く誕生している。
	3-3 カリキュラムは体系的に編成されているか	3	教育目標達成のためのカリキュラムは、入学から卒業まで、体系的に編成されているが、全国の姉妹校が集まる教育部会等で業界の情報を集約し研究、見直し等を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育の柱である「産学連携教育」により、即戦力としての実践力、技術・知識、ビジネスマインド等を身に付けている。産学連携の柱となる「企業プロジェクト」では、商品化を前提としたプロジェクトに取り組み、企業における実践的な仕事を身に付ける。 ・グループ合同で代表的な企業プロジェクトをまとめた冊子「COM300」を作成し、これまでの学生の教育成果を見えるようにした。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・TECH.C.の提供する独自の価値は他校を圧倒する企業プロジェクトの機会、場面の存在があるからであり、そこで培われる実践的な創造性に独自性があると考えられる。 ・企業が考える方程式は「パフォーマンス＝能力×モチベーション」であるが、「企業プロジェクトの作品＝能力×モチベーション」と読み替えることができる。能力は基礎力、実践力、コミュニケーション力、チャレンジ力があり、それに企業側からの叱咤激励や誉め言葉などのレスポンスからモチベートされ、当事者意識が芽生え強まることで、個々の能力が刺激を受けて発揮されたものが「創造力」ではないか。
	3-4 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	3	毎年、教員で見直しを行っており、適正な位置づけを行っている。	学科長を中心に、業界や講義を担当している先生にヒアリングを行い、カリキュラムの見直しを定期的に行っている。	3	・ゲームワールドでは1年次からチームでの制作があり、AI&ロボットワールドではインテルゼミなどの呼称でチームが作られ企業との関係が強化されているなど、早くから「チーム」で考え、動き、成果を出すプロセスに慣れることで、その先にある企業プロジェクトへと繋がっていくストーリーを重視していることがわかる。
	3-5 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	3	カリキュラムは学科に関わるもののみならず、社会的・職業的自立を目指し、業界・企業の協力を得て「キャリア教育」の視点に立ったものになっている。	キャリア教育の一環として行なわれる、入学前の自己発見→入学後の自己変革→卒業後の自己確立という、自己3段階教育の実践を行っている。テッサン、数学、コンピュータ基礎などの入学前教育を強化し、新入生の授業スタート時のつまづき防止に取り組んでいる。	3	・キャリア教育の視点から1年次から各学科、各先生が早期の就職活動について話しているの、聞きなれてしまっているように思われ、なかなか動き出せない学生が多い。具体的に動く方法も授業で話しているが、なかなか意識が高まらないように思われる。
	3-6 授業評価の実施・評価体制はあるか	3	1年に2回(前期末、後期末)に学生に授業アンケートを実施し、その内容を把握し教員で全体評価を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの内容は、授業の内容、指導態度、人間教育(挨拶や掃除)、先生の言動、学習効果などの項目がある。 ・授業アンケートの結果は講師へフィードバックして、授業の改善に役立ててもらっている。 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートを実施はしているが、全ての講師に共有されていない。 ・講師内でも授業評価に関する共有があると、授業改善に役立てられるのではないかと。
	3-7 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3	講師契約は一年毎の更新としている。業界の変化に合わせて授業内容を変更した際は、対応できる講師を採用し授業を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく講師を採用するために、業界関係者、企業などに協力を要請し人材確保に力を入れており、毎年講師数は確保されている。 ・令和6年度は約20名の新たな講師と契約し、カリキュラムに対応した講師の確保は十分に出来ている。 	3	・授業を担当する講師は、良い形で確保が進んできているようである。その一方で地方にある学校では講師集めに苦労している話を聞く。TECH.C.だけではなく、全国の姉妹校でオンラインでつなぎ授業が実施できるようになると、地方の課題解決にもつながると思う。
	3-8 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	3	全体講師会、専門分野のみの分野別講師会などをそれぞれ年2回程度実施している。また授業後には教員と講師の打ち合わせや授業報告書の提出をお願いしており、コミュニケーションの強化に努めている。	年に2回開催する全体講師会と、各分野単位、関連する授業単位で行う講師分科会では、講師の資質向上、授業改善等を目的とし、学生とのふれあい方や授業の実施方法についての議論を重ねている。各分野単位で実施する講師分科会は、細かなミーティングなども合わせて、多い専攻では年に4～6回実施しており、十分なコミュニケーションを心掛けている。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を円滑に行うため講師会の回数を増やして、講師間の情報共有を深めていきたい。 ・シラバスは学生との契約書。授業開始前にしっかりとシラバスを用意していただき、初回授業で学生に共有することを徹底する。
	3-9 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3	成績評価は出席率、授業態度、作品及びレポート、小テストなどで決定している。	<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が66.7%以上をクリアし、成績評価が60点以上で合格となり単位認定される。A-Fの5段階評価となっている。 ・成績評価のスタンダードを提示するように、準備を進めている。 	3	・授業の内容、講師に応じての基準で良いと思うが、シラバスが非常に重要で、講師に提出されたものをそのまま受け取るだけではいけない。チェックをして問題のあるものは書き直していただかないといけない。年度が始まる前の講師会で、意識や内容の擦り合わせが必要。講師会での擦り合わせは、改善されつつある。
	3-10 資格取得の指導体制はあるか	3	資格取得を目的とする授業を開講している。	資格取得の一例として、Microsoft Office Specialist Excel 80名(合格率78.4%)、PowerPoint 59名(合格率90.8%) Azure AI Fundamentals 105名(合格率58.3%)が合格し資格取得出来ている。また各種検定(アソシエイト・ホスピタリティコーディネータ191名(合格率100%)取得、コミュニケーションスキルアップ190名(合格率91.3%)なども取得している。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得の指導体制自体はあるようだが、受験率の低いものに関しては、学生に資格の有用性を学生に理解してもらい高めて欲しい。 ・CompTIAの資格であるCloud+、Network+、IT Fundamentals+など姉妹校の学生が多く受験し資格取得している。

4 教育成果	4-1 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	3	就職では、「絶対就職」を標語に掲げ、就職希望者全員が就職達成できるよう一人ひとりにあったサポートを行っている。	合同企業説明会(年2回)、単独の企業説明会(のべ50社)も随時開催し、学生とマッチングしやすい環境を作っている。就職希望者による第一専門職の就職率は90%を超え、多くの学生が自分の希望する業界、身に付けた技術を活かした就職をかなえている。また卒業後の転職についてもサポートしている。	3	・就職出陣式で意識が高まっているようなので重要だと感じている。 ・以前はただ漠然と授業を受けていたものが、就職先が決まって「これが必要だがここが分からないのもっと学びたい」という学生が増えた。 ・学生の気質がポジティブになり、チャレンジする方向に向上しているようである。 ・第一専門職への就職率を高める施策を行っていることは評価できる。
	4-2 資格取得率の向上が図られているか	3	3-10で述べた通り、資格取得の指導体制は万全である。ベンダー資格の一つの壁である高額な資格代金は、学校価格で学生に提供でき資格を受験しやすい環境になっている。また、学校内で資格受験できるよう試験環境も整っている。	Azure AI Fundamentals資格は担当者を決めて資格対策の体制を整え、合格率アップ(30.9%→58.3%)することが出来た。	3	・姉妹校に比べて受験率が低い資格があるので、もう少し推進することが必要である。
	4-3 退学率の低減が図られているか	3	経済的困窮や精神疾患など専門家の協力が必要な場合もあるため、ファイナンシャルアドバイザーやカウンセラーに協力を得てサポートしている。	学校全体の退学率は3.8%であった。(令和5年度全国専修学校平均5.5%)十分に退学率の低減が出来ている。	3	・退学率の軽減が出来ており評価できる。
	4-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	在校生の社会的な活躍および評価は常に把握が可能である。卒業生との交流は卒業時に同窓会組織への参加とSNSの登録を促している。	在校生のコンテストへの入賞、企業プロジェクトによる商品化は学校全体を通して評価の共有しており、公式HPへの掲載や他学生の前の表彰などを実施している。卒業生の活躍を収録したものは学園のラジオ番組、YouTube「あなたの夢は何ですか」で配信されている。	3	・学園祭や卒業進級制作展などのイベントに多くの卒業生に来ていただき、卒業後も関係を継続できているようである。また卒業後の状況もその際にヒアリングしており把握が出来ていることは素晴らしいと思う。
5 学生支援	5-1 就職に関する体制は整備されているか	3	就職専門部署であるキャリアセンターを設置し、担任と連携を取りながら対応している。	・キャリアセンターは求人開拓、学生の就職相談、斡旋、履歴書の書き方、面接対応、インターンシップ、業界アルバイト、ポートフォリオ(作品集)指導などを行っている。また、転職など卒業後サポートもしている。 ・留学生の就職については、決まらない学生は技術は問題ないが、日本語力の問題でコミュニケーションが不安視され就職が決まらない場合が多く、日本語のサポートが急務である。就職活動中の留学生15名が特定活動ビザを取得し、就職活動を延長してサポートしている。	3	・IT関連企業の就職は年々早まっているため対象となる就職次年度の学生は、就職前年度の5月に就職活動のキックオフとして就職出陣式を実施しており、早期の意識付けが出来ており、時流に合わせた就職イベントを実施していることは評価できる。
	5-2 学生相談に関する体制は整備されているか	3	担任制を取っており、個別に相談時間を設け、学習理解度や職業理解、就職活動、アルバイトや友人関係など学生生活などの不安にも寄り添っている。	担任はホームルームなどでグループワークの実践、友達作り、コミュニケーション力の強化、ホスピタリティマインドを身に付ける講座などを実践し、相談しやすい環境作りやマインドの強化を図っている。	3	・将来への不安や、人間関係の悩み、就職の悩み、それぞれにきちんと対応できている。
	5-3 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3	学生の経済的側面については、相談窓口として事務局会計課を置き対応する制度がある。	事務局会計課にはファイナンシャルアドバイザーがおりサポートしている。	3	・奨学金担当者がおり、分からない部分は常にサポートできている。
	5-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3	・健康管理については滋慶学園グループのクリニックである慶生会クリニックが担当し、在学中の健康管理を支援する制度がある。 ・精神的な問題に関してはステューデントサービスセンターを設置し在学中のメンタルケアを支援する体制を構築している。	・慶生会クリニックの協力のもと学生は年一回の健康診断を実施している。 ・専門のスクールカウンセラーが毎日学校で学生支援を行っており、いつでも相談に乗ってもらえる環境を用意している。	3	・心のサポートのためスクールカウンセラーに来ていただいており、メンタルケアを行っていることは素晴らしい。
	5-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	学生の課外活動であるサークル活動・同好会は、校内の施設を使い活動ができるように支援している。	サークル活動が活発に行われるようになり、今年度よりカードゲーム、卓上ゲーム、軽音楽、ライトニングトークの4つがスタートし、放課後などを利用して活動している。	3	・サークル活動をする学生が増えたということで、学校生活が充実しているようである。
	5-6 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	3	学生寮も学園の専用の寮を整備しており、寮長と担任とが連携して学生を支援している。高田馬場周辺の賃貸情報も地域の不動産業者と連携し、提供・サポートしている。	学生寮はジケイ・スペース株式会社が管理運営しており、連携を取りながら支援している。	3	・学生寮や提携の不動産などがあるのは、一人暮らし学生の保護者も安心できる。
	5-7 保護者と適切に連携しているか	3	学生が休むと電話やメールで保護者に連絡をしている。長期で欠席した場合は家庭訪問も行っている。また毎年個別の保護者面談も行っており、学生の情報交換を密に行っている。	特に心配な学生に関しては、学生状況の定期報告を保護者へ行っている。また連絡がつかない時は家庭訪問を行い状況把握に努めている。	3	・キャリアサポートとして面談を計画的に実施し、将来の進路相談を行っていることを評価する。その際、転校や専攻の相談なども含めて適切な進路指導が出来ているようである。また保護者にこまめに連絡し連携を図っている。
	5-8 卒業生への支援体制はあるか	3	卒業生に対して再就職や転職サポートを行う体制がある。	・卒業後もキャリアセンターや担任に相談があった際は、在校生と分け隔てなく相談を受けサポートを行っている。	3	・卒業後の支援も行い、進路相談、転職相談なども随時受けている。

6 教育環境	6-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2	<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境(施設・設備、機材、ソフトウェア等)の整備は専門のサポート業者に委託し対応している。 ・校舎内を清潔に保つために週一度点検日を設け、不備はないか確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サポート業者は常駐しており、校舎内のコンピュータメンテナンスを対応している ・ネットワークについては改善でき、つながらないなどの問い合わせは無くなった。 ・教職員に担当フロアを割り当て点検し、毎週会議で報告している。 ・次年度に新校舎ができるため、学生のランチやミーティングスペースは緩和できると思われる。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・PCの安定動作の向上を引き続きお願いしたい。 ・施設・設備面は整ってきているものの、その中に入っているシステムの運用方針が決まっていなように思える。今後はその運用方針を決め、講師にも共有してもらいたい。
	6-2 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学外実習や特別講義は積極的に取り組んでいる。 ・卒業年度生はインターンシップに参加し就職活動に活かせる制度がある。 ・アメリカで企業訪問や特別講義を受ける海外実学研修の制度がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別講義はIT企業、ゲーム会社、イラストレーター、アニメーターなど51回実施した。 ・コロナの影響で実施できていなかった海外実学研修を3年ぶりに実施し、1-4年生総勢で47名が参加。アメリカロサンゼルス、サンフランシスコ、シリコンバレーなどを見学した。企業訪問でのクリエイターによる講義や提携校でのワークショップなど非常に満足度の高い内容となった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・海外実学研修が実施できたことで、参加した学生は有意義な経験が出来たと思われる。
	6-3 防災に対する体制は整備されているか	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ジケイスペースの協力を得て防災訓練(火災、地震などを想定)を年一回実施している。 ・マニュアルを用意し防災体制を構築している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームルーム内で学生に避難経路の確認や消火器の使用方法などについて説明を行っている。 ・マニュアルは防災担当者がジケイスペースに相談し見直しを行っている。 ・次年度に新校舎ができるため、昼食スペース不足は緩和されると思っている。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・問題なく実施されている
7 学生の募集と受け入れ	7-1 学生募集活動は、適正に行われているか	3	東京都専修学校各種学校連合会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(AO 入学等)を毎年、遵守している。	募集ルールの遵守及び誇大広告の排除など十分に配慮し実施している。令和6年度も定員を満たすことが出来た。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・定員通り募集活動が出来て素晴らしい
	7-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3	パンフレット、入学案内、ダイレクトメール、体験授業、学校説明会、ホームページ、SNS等を通して教育内容や教育成果を正しく伝えるように、広報担当者、教員、キャリアセンターの教職員がチェックする体制を構築している。	<ul style="list-style-type: none"> ・入学後や仕事のイメージを明確にしてもらうために、体験入学や学校説明会への複数参加を促し、職業理解と学校選びが十分に検討できるようにしている。 ・成長過程がわかるように、一般的な学生の入学時から1年後、2年後、3年後、卒業時の作品を使って学科説明している。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・進路選択が出来るように体験授業が充分に開催されている
	7-3 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3	<ul style="list-style-type: none"> ・出願方法、必要書類、出願受付日、選考日などについては、学生募集要項に明示し実施している。 ・選考は面接試験と書類(入学願書、AOエントリーシート、高校調査書など)で行い、面接担当者、事務局長のチェックのうえ合格の判定を行っている。 ・留学生に関しては上記に加えて、日本語能力を確認するテストを実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面接担当者は入学願書またはAOエントリーシートに記入された作文をもとに質問を行っている。 ・選考基準は面接と書類で「将来の夢」や「目的意識」の確認を行い合格判定している。 ・留学生の日本語テストは日本語能力試験2級レベルの内容で80点を合格としている。 ・日本語に難のある学生はテストをクリアして入学するため、日常会話、専門用語など日本語トレーニングを継続して努力する必要がある。 ・日本語授業は1-4年まで全員が受講している。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生が日本語で授業を受けるのに、やはり難しい学生がいる。日本で仕事をするためには日本語力の向上が必要である。
	7-4 学納金は妥当なものとなっているか	3	学納金は授業料、施設設備など学内の機材や環境、教科書及び教材、学校行事、資格検定などにかかる費用を算出し、滋慶学園本部の了承のもと決定している。	<ul style="list-style-type: none"> ・在学中の授業料及び諸経費などの学納金については学生募集要項に明記している。 ・定員通りに入学しており、学納金は妥当なものだと思われる。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・問題なく実施できている
8 財務	8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	毎年、次年度(短期的)と5か年(中長期的)の2つの視点で事業計画を作成し収支予算も立てており、財務基盤を安定させる体制が構築されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・短期的な予算編成は当年度の実績を基に次年度に予定している計画を加味して行っている。 ・中長期的な予算編成は主として将来の計画を視野に入れた上で、業界の情勢を読み取りながら行っている。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学園のルールを遵守して問題なく実施できている
	8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3	健全な学校運営のため、在校生数、広報及び就職計画を鑑みながら収支計画を作成し、それを学校、学園本部、理事会、評議員会と複数の目でチェックしており実行している。	<ul style="list-style-type: none"> ・短期的な予算に関しては現実のものとならぬ場合は修正予算を組み、中長期的な予算においては毎年編成し直している。 ・学校法人コミュニケーションアートの理事会は9名の役員(理事7名、監事2名)、評議員会は15名で組織されている。 	3	
	8-3 財務について会計監査が適正に行われているか	3	会計監査は、法人及び学校の利害関係者に対して、法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために、第三者による監査人が法人とは独立し計算書類が適切かどうかを監査している。	四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者が予算と実績が乖離しているようであれば修正予算を編成し、理事会、評議員会の承認を得ている。	3	
	8-4 財務情報公開の体制整備はできているか	3	「財務情報公開規程」及び情報公開マニュアルを作成し財務情報公開の体制を整えており、毎年公式HPで公開している。	作成した決算書、事業報告書については、情報公開の対象となり公式HPで閲覧出来る。	3	

9 法令等の遵守	9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	・滋慶学園グループ全体の方針として法令遵守を掲げ、その方針を理解し実行に努めている。 ・法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。	・コンプライアンス委員会は委員長(滋慶学園グループ)と委員2名(TECH.C.)で構成している。	3	・情報公開している点を評価する。
	9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3	個人情報保護に関しては、教職員は一般社団法人日本プライバシー認証機構(JPAC)主催の研修を受け、個人情報取扱従事者資格を取得している。	個人情報管理のための組織体制をグループ内に設け、個人情報管理システムを構築し対応にあっている。	3	
	9-3 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3	学校関係者評価委員会を開催し、自己点検、自己評価をもとに様々な意見を伺う体制を構築している。	・学校関係者評価委員会の委員は業界関係者、卒業生、近隣の方、高等学校関係者、保護者で組織されている。 ・委員から出た意見をもとに改善に取り組んでいる。	3	
	9-4 自己点検・自己評価結果を公開しているか	3	学校の公式HPに情報公開しており、自由に閲覧することができる。	HPの情報公開は年に1回更新している。	3	
10 社会貢献	10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3	学校の施設設備を使った職業理解のための体験授業や、講師による出張授業など十分な体制が整っている。	コロナも明けたため、小中学校の修学旅行や学校見学の受け入れ、高等学校へ出向いて職業理解のための体験授業や部活動支援、海外の大学や専門学校からの施設見学などの問い合わせが増えている。7月にはアメリカから短期留学を12名受け入れ、アニメ、イラストの授業を8日間受講した。	3	・よい取組みなので、もっと告知や案内をすべき。
	10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3	ボランティア活動は積極的に奨励している。	・年度末に学生有志による近隣の清掃活動を行っている。 ・千葉県我孫子市大型マンションのコミュニティー-sports大会に於いて運営、機材提供、イベント運営などを行い、大盛況であり新聞・テレビで紹介された。	3	・フードドライブやSDGsなどの社会問題に学校としてどう取り組んでいくのか、またそれをカリキュラムや職業観にどう結びつけて考えていくと教育効果として面白いことが生まれるかもしれない。 ・学習とボランティアと共存できる学生への評価はとても良いと思う。